

D. Iさん 大学院先端科学技術研究科 情報学専攻博士課程（後期）修了

IoTおよび情報システム分野に関する研究に取り組み、博士（情報学）を取得。

電機メーカー 技術職

社会インフラ向けシステムの開発業務に従事。生産管理システムを中心とした情報システムの設計・開発を担当し、IoT技術を活用した業務改善や課題解決に取り組んでいる。

大学院での研究活動および就職活動、企業就職の理由

大学院での研究活動および就職活動、企業就職について

博士課程では専門分野における研究活動に加え、国内外の学会への参加や研究成果の発信を通して高度な研究能力を磨きました。また、研究活動だけではなく、将来のキャリア形成を見据えた情報収集にも積極的に取り組みました。

就職活動当初は研究職を中心に検討していましたが、企業研究者や採用担当者との交流を通じて、博士課程修了者は研究職に限らず設計・開発職でも活躍できることを知りました。採用選考では研究部門だけでなく開発部門にも応募し、自身が本当にやりたい仕事について改めて考える機会となりました。

結果として、顧客の課題を把握し、技術によって解決策を設計・実装する業務に強い魅力を感じ、現在の企業への就職を決意しました。

博士課程での経験が現在に活かしていること

博士課程で培った課題発見能力や論理的思考力は、システム開発の現場で大いに活かされています。顧客の要望や課題を整理し、最適な技術的解決策を検討・実装するプロセスは、研究活動における問題解決の考え方と共通しています。

また、論文執筆や学会発表を通じて鍛えられた文章作成力や説明能力は、設計資料の作成や社内外への提案・報告の場面で役立っています。研究経験により、研究者と協働するプロジェクトにおいても専門的な議論を円滑に進めることができます。

大学院先端科学技術研究科博士課程（後期）を目指す方へのメッセージ

博士課程で身につく能力は、研究分野だけでなく企業でも高く評価されます。大切なのは、自分が将来何を実現したいのかを考え、そのために必要な経験を積むことです。

在学中は研究活動に加え、英語力の向上やコミュニケーション能力の強化、新しい技術への興味を持ち続けることを意識してください。また、生成AIなど新たな技術を積極的に活用し、変化の速い社会に対応できる力を身につけることも重要です。

博士課程修了後の進路は研究職ではありません。自分のやりたいことを大切に、幅広い可能性に目を向けてほしいと思います。

経 歴

2017（平成29）年3月	東京電機大学理工学部理工学科情報システムデザイン学系卒業
2019（平成31）年3月	同 大学院理工学研究科情報学専攻修士課程修了
2022（令和4）年3月	同 大学院先端科学技術研究科情報学専攻博士課程（後期）修了
2022（令和4）年4月	電機メーカー 技術職